

再々評価調書

事業名	二級河川春木川 河川改修事業				
担当部署	都市整備部 河川室 河川整備課 中小河川グループ(連絡先 06 - 6944 - 9297)				
事業箇所	岸和田市下野町地先～岸和田市尾生町地先				
再々評価理由	再評価後5年を経過した時点で継続中				
事業概要	目的	春木川は、流域の都市化が既に進んでおり、氾濫区域内の人口資産の集積度が高いので、洪水による被害を防止し、豊かな生活環境を築くため河川改修を進める。			
	内容	<b>【全体計画・河川整備計画】</b> 改修延長 L=約 4.2km 目標流量：220m <sup>3</sup> /s (1/100年確率 時間雨量 71.5mm) 140m <sup>3</sup> /s (1/10年確率 時間雨量 48.9mm) 護岸工：約 4.2km、道路橋：13橋、鉄道橋：2橋、堰：4基			
	事業費	全体事業費約 110億円(約 96億円) うち投資事業費約 100億円(約 76億円) (内訳)用地費 約 30億円(約 28億円) (内訳)用地費 約 30億円(約 27億円) 工事費 約 79億円(約 66億円) 工事費 約 69億円(約 48億円) 調査費 約 2億円(約 2億円) 調査費 約 1億円(約 1億円)			
	( )内の数値は前回評価時点のもの	<b>【事業費の変動理由】</b> J R 橋梁改築費について、設計基準の変更及び安全対策費の増大により、当初想定金額から増大したため。	<b>【工事費の内訳】</b> 護岸工 約 44 億円 道路橋約 7 億円 鉄道橋 約 25 億円 堰 約 3 億円		
	事業費の変動要因	<b>【他事業者との協議状況】</b> 橋梁改築費変更については J R と協議済み (H16)。 <b>【再評価時に予測した事業費変動要因の状況】</b> 特になし <b>【計画変更の予定】</b> 事業費変更については国と協議済み (H16)。			
	維持管理費	約 5 百万円 / 年 (実績等に基づく算定)			
	上位計画	春木川水系河川整備基本方針 (H19.12) 春木川水系河川整備計画 (H20.2) 「大阪府都市基盤整備中期計画(案)改定版」(H17.3)			
	関連事業	尾生久米田特定土地区画整理事業(管理用通路を区画整理と一体で整備する。)			
	事業の進捗状況	経過	事前評価時点 (S56年)	再評価時点 (H15年)	再々評価時点 (H20)
事業採択年度 事業着工年度 完成予定年度		S56年 S56年 H20年	S56年 S56年 H22年	S56年 S56年 H25年 [H29年] [ ]内は河川整備計画	用地取得に関する地元調整に当初想定以上の期間を要したため。
進捗状況			用地：97% <4.66ha / 4.80ha> 工事：79% 整備済延長 1.0km (24%)	用地：98% <4.70ha / 4.80ha> 工事：86% 整備済延長 1.8km (43%)	用地は概ね計画通り推移している。工事は計画規模の改修は遅れているが、1/10年確率対応の改修は進んでいる。改修済箇所から氾濫防止が図れる。
今後の事業進捗の見通し	河川整備計画に従い、1/100年確率の大雨による洪水を安全に流下できるよう改修を進める。ただし、整備にあたっては段階的に進めるものとし、当面は、1/10年確率の大雨に対応できる改修を先行させる。 <b>【新たなコスト縮減や代替案等の可能性】</b> 特になし。				

事業目的に関する諸状況	事前評価時点	再評価時点	再々評価時点	分析
	河川事業 想定氾濫区域 67.3ha 浸水戸数約 651戸	河川事業 想定氾濫区域 102ha 浸水戸数約 2,610戸	河川事業 想定氾濫区域 855ha 浸水戸数約 24,640戸	解析手法変更に伴い想定氾濫区域及び浸水戸数が増えた。
事業を巡る社会情勢の変化		ふるさとの川整備計画に基づき、地元市が緑道整備をする等、府・市が連携した整備を進めており、用地取得についても団体交渉により地元の協力のもと順調に進んでいる。	平成16年度に常盤地区、平成18年度に南掃守地区の河川維持管理活動に対し、参加団体、府、市との三者で協力・支援を行い、河川環境の美化活動(清掃、緑化等)を実施するアドプトリバープログラムの協定を締結した。	アドプトリバープログラムにより地元の協力が得られやすくなった。
地元等の協力体制				

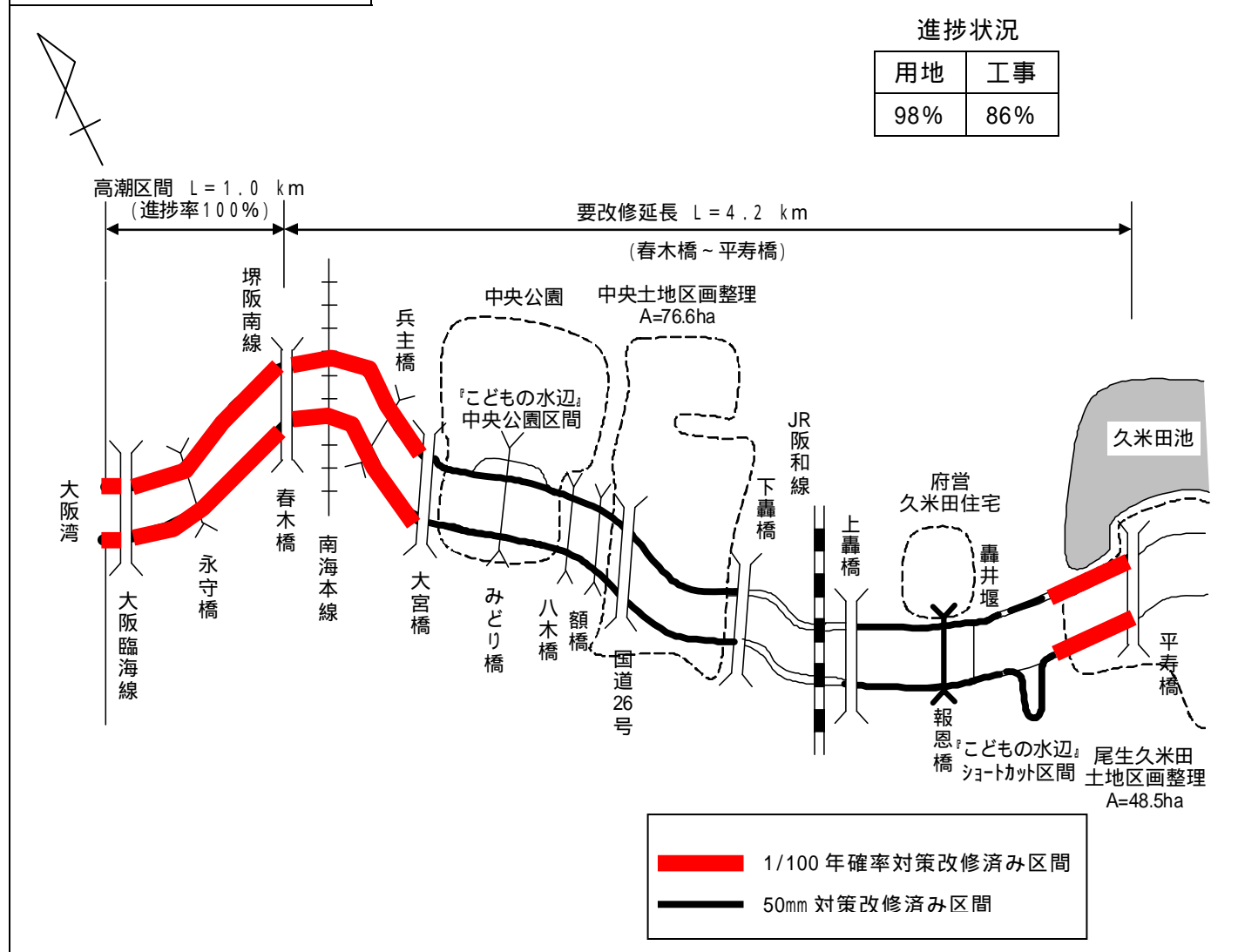
	事前評価時点での状況		再評価時点での状況	再々評価時点での状況(変更点)	分析	
		備考				
事業効果の分析	費用便益分析	下記代替指標による	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ B / C = 12.60</li> <li>便益総額 B = 1,430.61 億円</li> <li>総費用 C = 113.56 億円</li> <li>・ 費用便益算定の根拠： 治水経済調査マニュアル(案) 平成 12 年 5 月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ B / C = 53.31</li> <li>便益総額 B = 9,376.55 億円 浸水被害軽減便益 9,376.55 億円</li> <li>総費用 C = 175.87 億円 建設費 173.86 億円 維持管理費 2.01 億円</li> <li>・ 費用便益算定の根拠： 治水経済調査マニュアル(案) 平成 17 年 4 月</li> </ul>	総費用は J R 橋梁改築費の増大により増加したが、想定氾濫区域の増加に伴い、便益総額が増加したため、B/C が増加している。	
	その他の指標(代替指標)	C / B = 16.6 年平均被害軽減額 B = 409.6 百万 総事業費 C = 6,800 百万	便益内容：資産被害防止効果 受益者：周辺住民、農業従事者			
	定性的分析	<安全・安心> 浸水被害の軽減(生命・財産)・・・受益者：周辺住民、農業従事者		改修計画案を地元参加のワークショップ形式により検討しており、住民意見を反映した改修を実施している。 <安全・安心> H13 より狭小部の JR 橋梁、轟橋の改築に着手。 <活力> 改修計画案を地元参加のワークショップ形式により検討中である。 <快適性> 改修計画案を地元参加のワークショップ形式により検討中である。 <その他> 上流域で尾生久米田土地区画整理事業が実施されており、流域の開発が著しい。	河川整備方針・河川整備計画の策定により、地域住民の意見を反映した改修事業を実施している。 <安全・安心> H17 に JR 橋梁の改築が完成した。 <活力> 平成 16, 18 年度に常盤、南掃守地区においてアドプトリバーによる住民主導の河川維持管理活動を実施している。 <快適性> 河川整備方針・河川整備計画の策定に伴い、改修計画が決定された。 <その他> 同左	改修事業の実施区間では、治水安全度が向上している。 地域住民との協力体制がより強化された。 周辺の景観と調和のとれた整備計画を行っている。
自然環境等への影響と対策			春木川は市街地の進む中、多くの動植物の貴重な生育環境となっているため、動植物の生息環境に十分配慮する。	同左	河川整備方針に従い、自然環境の保全と回復に配慮した改修を行っている。	
その他特記すべき事項				河川の水位情報、浸水想定区域を公表している。		
前回評価時の意見具申・府の対応方針の概要	【意見具申】 【府の対応方針】		【意見具申】本事業については、「事業継続は妥当」と判断する。 【府の対応方針】『事業継続』とする。	(前回評価に対する具体的な取組み) 引き続き事業の進捗に努める。		

# 二級河川春木川河川改修事業概要図

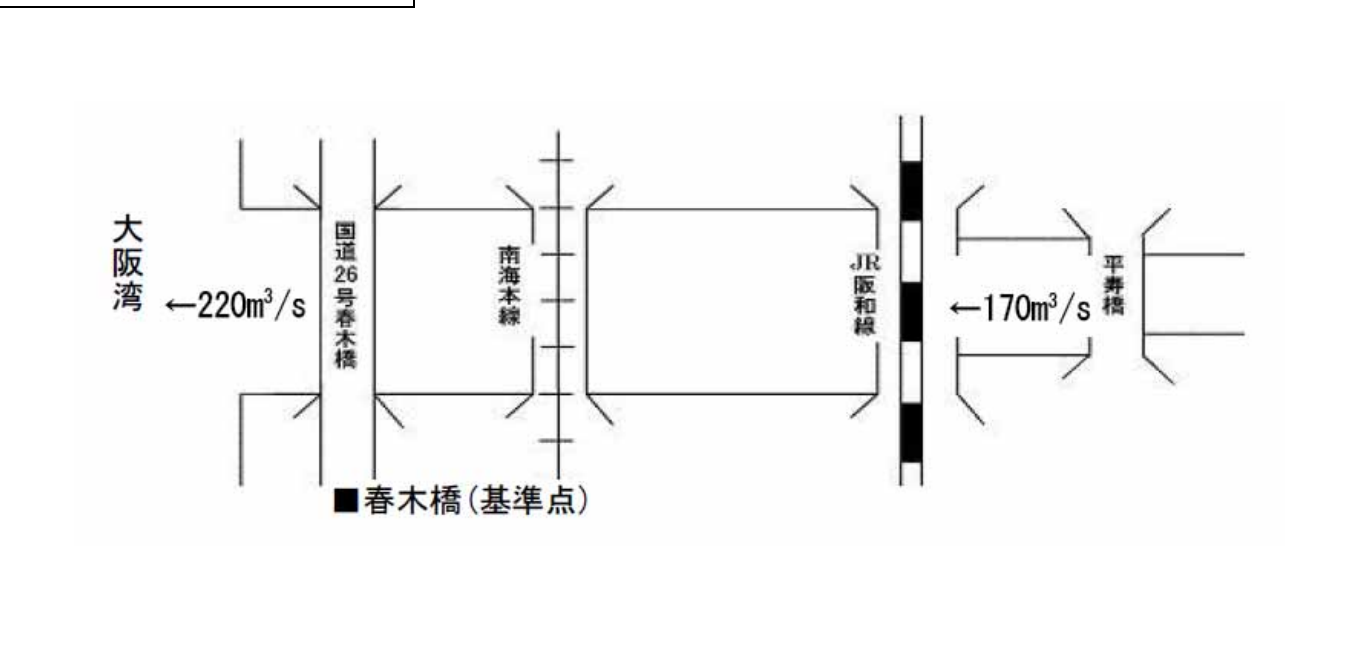
事業箇所図



平面図



流量配分図



標準断面図

